

地区自治会におじゃまします！

このコーナーでは、宮代町内の地区・自治会の取り組みや地域の特色などをお届けいたします。

◆ 新中町会

自治会情報 [稲荷町町内会]

【構成】
118世帯



(2024年4月1日現在)

昨年「自治会離れ」が進んでいるという話をよく耳にします。その原因の一つとして挙げられているのが「役員が回って来ることの負担」です。地域のつながりは大切だと思ふけれど、役を担うのはちょっと…そんな流れに一石を投じる試みをおこなっている、新中町会にお話を伺いました。

【自治会を解散するしかないのか】

新中町会は戸建て住宅が多い地域です。数年前、地区・自治会長が集まる地区連絡会で、当時の新中町会の会長さんが「役員のみならず、苦勞している」と話していました。同席していた他の方々も「うちの地域も同じだ」「役員を頼みに行っても引き受けられず困っている」などの声が上がりました。新中町会長は「周囲の人とも話しているが、自治会を解散することも考えなければならぬかもしれない。」と発言され、事態の深刻さと共に、地域の方々の葛藤を感じました。そして、本当に



【地域の拠点「ペリカン教室」】
新中町会の拠点は、かつて絵画教室だった施設です。役員会などもここで開かれています。

自治会を解散してしまうのが、気にかかっていました。

【有志が集まり再スタート】

今年度に入って開催された地区連絡会に、新中町会の新しい会長が出席し、これまでの経緯を話されました。前会長が話していた通り、町会では役員を引き受けの人を探すのが難航し、自治会の解散も含めて検討せざるを得ない状況に陥ったそうです。そんな中、地域のつながりを大切にしたい有志が集まり、忌憚ない話し合いを行った結果、「これまでの役員会のあり方を見直し、できる人が役を引き受けることにする」「会議の回数を減らすなど、必要最低限まで業務量を削減する」「会費の集金方法などを見直し、班長の業務を軽減する」など、大胆な改革を行いました。またこれに伴い自治会の規約も改正し、再スタートを切りました。現在役員となっている方々は、「地域のつながりが途切れることは残念なので、



【コミュニケーションを大切に】
「〇〇さんはどうしてる？」など、役員の方々は敬老会に訪れた方との会話を大切にしていました。

何かできないか、と話し合う中で、各々が自分のできることを引き受けたら、ちゃんと機能するような体制になった」と笑顔で話していました。また、新しい体制になったことを機に、再び自治会に入ってきた方もいるとのことでした。

【行事を通じて地域のつながりを大切に】

取材時、新中町会では地域敬老会を開催していました。地域の拠点に役員が集まり、訪れた対象者にお祝いの品を渡しなが、近況を話したり、他の会員のことを気遣ったりと、そこで交わされる会話は温かく、地域のつながりを大切にしていることがわかります。役員の方々曰く、次につなげていくためにも、地域に関わることが楽しいと思う人の輪を少しずつ広げていくように努めているとのことでした。
無理なく楽しく地域を支え続けていく新中町会は、これからの自治会活動を考える上での新しい地域のモデルだと感じました。

今月の 気になったコト

◆ とうふ屋 豆いち 祝！1周年！




最近販売を始められた「油揚げ」。国産大豆で作った生地を上質な菜種油でじっくり揚げた逸品！

国産大豆100%で作っている美味しい豆腐でおなじみの「とうふ屋 豆いち」が、来る12月1日、1周年を迎えられます！本誌では昨年のオープン以来、豆いちさんには本当にお世話になっています。進修館だよりを配架していただいたり、和戸町内会主催・進修館共催のサロン企画ではおやつをご提供いただいたり…いろいろ無理も聞いてくださって、感謝の念に堪えません！

このコーナーでは、宮代町内をいろいろ回っていた際に気になったモノ・コト・ヒトなどを取りあげていきます。

記者がオススメする豆いちさんの商品は、豆腐はもちろん、豆乳と厚揚げ！そして気になるのが、最近販売を始められた油揚げ！デザートTOFUも美味なので皆さま是非！

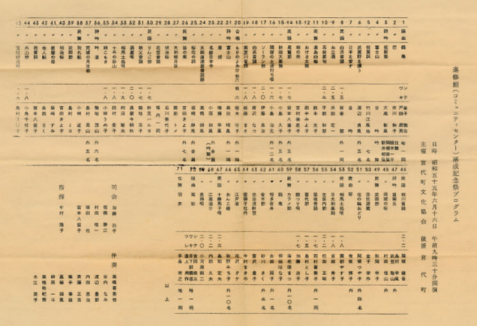
【とうふ屋 豆いち】
住所：宮代町西原481-1
TEL：0480-32-4443
営業時間：12:00～18:00
定休日：火曜日



教えて、田沼さん！「進修館のあんなこと、こんなこと」第4回

このコーナーでは、進修館の建設時に宮代町役場職員として関わった田沼繁雄さんに、当時のエピソードなどを伺います。

先日ある方が「進修館のオープニングイベントのプログラムが見つかりました」と届けてくださいました。渡されたわら半紙には「進修館（コミュニティセンター）落成記念祭プログラム」と書かれ、なんと71もの演目が連なっています。当時の「広報みやしろ（1980年7月号）」には、その様子が掲載されています。6月15・16日



「進修館（コミュニティセンター）落成記念祭プログラム」には、数多くの演目が掲載されています。

の2日間かけて開催された「進修館開館記念フェスティバル」は、初日は体育協会主催による芸能人を招いてのアトラクション、2日目は文化協会主催の文化祭と、とても盛大な催しだった様子。現在健康体操として町民のみなさんに親しまれている「みやしろキラキラ体操」で使用されている「ソング・フォー・ミヤシロマチ」のお披露目



催しの告知は「広報みやしろ」に掲載されました。往復はがきで申し込み、返信ハガキが入場券になったようです。

と歌唱指導も行われました。

田沼さんにこの時の様子を伺ったところ、それはそれは大盛況だったとのこと。「現在は有名になっている北野武さんが『ツープート』というコンビでステージに上がったのですが、そのギャグが痛烈で、みんな驚いていました。」と話してくださいました。華やかなオープニングだったのです。



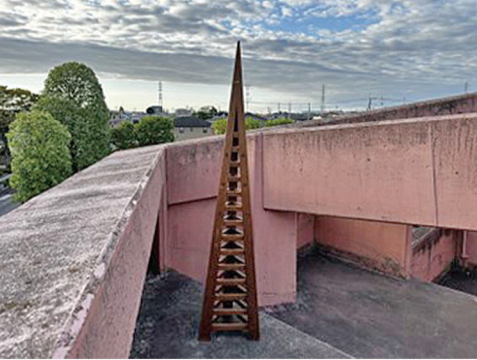
6月15・16日の様子は「広報みやしろ」1980年7月号に写真入りで掲載されました。このあと、1980年7月1日に進修館が正式に開館しました。

「外」から再発見、進修館の魅力」第2回

このコーナーは、進修館でアルバイトしている日本工業大学の学生（地元は福島県）が、町外から宮代町に越してきて感じた、進修館の魅力について語るコーナーです。



ロビーにある大きなテーブル。このテーブル、なんとなく宮代町の形に似ていると思いませんか？建物だけでなく家具にもこだわりが！



こちらはロビーに置かれているライトスタンド。議会の椅子同様、こちらも宮代町にある鉄塔をイメージしたものだそうです。

みなさん、こんにちは！日本工業大学建築学科1年の浦山です。今回、僕がみなさんにお伝えする魅力は、進修館が出来たきっかけやストーリー、館全体にちりばめられた宮代愛の数々についてです！

1980年に開館した進修館、実は建築界では有名なあの“象設計集団”に依頼をして建設されていたのです。驚きなこと象設計集団のメンバーの一人である富田玲子さんは、当時町長だった斎藤甲馬さんの姪御

さんでもありました。甲馬さんが進修館の設計を依頼する際には、「世界にひとつしかない建築」を作ってくれと言われたそう。そこで富田さんはこの進修館に宮代町を表現されたのだそうです。例えば、議会で使われる椅子のあの形はこの町にそびえ立つ鉄塔を、ロビーにあるカーブした机はこの町の地形を表しているのだとか。他にも、進修館の庭にはこの街の特産品でもある巨峰が植えられています。ぶどうはつる性の

植物で、伸びたぶどうの樹がやがて進修館を覆うことを願って庭から屋根にかけてネットが張られています。また、館内のいたるところにぶどうの彫刻がなされています。テーブルにはガラスブロック、床にはタイル、さらにはドアの取手に至るまで、館内のどこにいても宮代町を感じられるデザインになっています。僕はこれまで館内の机や椅子を見ても、ただ独特な形だとなしか思っていませんでした。館内の至るところにあるぶどうについてもそうです。しかし今ではとても細かなところからこの街への愛が感じられる素敵なデザインだと感じています！

今回は進修館の中にちりばめられた、様々な魅力をお伝えさせていただきました。みなさんも次に進修館を訪れた際には、ぜひもう一度館内をよく見て回ってみてください！宮代愛にあふれた、まさに「世界にひとつしかない建築」が、みなさんを待っています！